
森近霖之助のお悩み相談室

UNKNOWN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

森近霖之助のお悩み相談室

【Nコード】

N3818S

【作者名】

UNKNOWN

【あらすじ】

古道具屋『香霖堂』の店主、森近霖之助はある日、知人の少女から相談を持ちかけられる。

一応相談に乗ってみると、良い回答だったのか少女は満足して店を後にした。

するとその日から、多数の人物から相談を持ちかけられた。

突然の事に困惑する霖之助。

だが、その時ある事を閃く。

「もしかしたら僕の店が繁盛するチャンスじゃないか——？」

直感的にそう考えた霖之助は、すぐに『香霖堂』に相談室を設立する。

悩みを解決するのはもちろんだ。

だがあくまで本命は『相談ついでの商品の購入』だ。

今日も『香霖堂』に相談者が来る。

「さあ、君の悩みはなんだい？」

（前書き）

初めてまして「UNKNOWN」です。

今回投稿するのは、東方Projectの霖之助を主人公にした作品です。

相談に淡々と霖之助が答えるだけの小説になってます。

ちなみに、回答は全て作者である自分の見解なので、誤認なさらぬよう。

なお、この作品にはカップリング要素があります。

霖之助カップリングが苦手な方は読まない事をお勧めします。

大丈夫という人は、どうぞご覧になってください。

やあ、いらつしゃい。

『森近霖之助のお悩み相談室』へようこそ。

さて、本来ならしがらない古道具屋の店主である僕が、何故相談室を開いているか疑問に思っただろう。

その理由を順に説明していくとしよう。

この前とある人物から悩みを相談されたんだ。

その人物が誰なのかはプライバシーにより伏せさせてもらおう。

そうだな、『ある神社の貧乏巫女』さんとも呼ぼうか。

さて、その人物が話して来た内容はこうだ。

「なんでうちの神社には参拝客が来ないのかしら？

そりゃ人里から遠いつても分かるけどね。

ていうか、妖怪の山にあるあの神社の方が多いつてどういこうとよ。

おかげでお賽銭箱もすっからかんだわ」

ふむ、まあ言いたい事は色々あるが、一先ず後回しにしよう。

次に来た悩みはこれだ

「またアイツが私の本を持ってつたわ。

これで何冊目だと思ってるのよ。

しかも中途半端な巻とか持つてくから整理もできないし困ったわ。何とかならないかしら？」

因みにこの人物は「引きこもりの魔法使い」さんとも呼ぼうか。さて、これ以外にも色々な人物から多数の質問や悩みが来ている。あまりの多さに僕自身驚いたよ。

皆が皆、たくさんの悩みを抱えているんだなと思った。
そこで僕は考えたんだ。

この寄せられてきた悩みを解決していくことで、僕の店『香霖堂』の発展にも繋がるということ。

質問を解決すれば、その人の悩みはなくなる。

その人の僕への印象はいい方に傾くだろう。

すると、また相談がある時に僕の店に足を運ぶ機会が増える。

その際商品を購入していく事だつてある。

結果、僕の店は繁盛する。

まさに一石二鳥じゃないか。

この機会を逃すまいと、今日から僕は様々な悩みに答える。

さて待たせたね、君の悩みはなんだい？

「ある神社の貧乏巫女」さんからの悩み」

Q・なんでうちの神社には参拝客が来ないのかしら？

そりゃ人里から遠いつても分かるけどね。

ていうか、妖怪の山にあるあの神社の方が多いってどうい
とよ。

おかげでお賽銭箱もすっからかんだわ。

A・まず何が原因なのかをよく探してみたらどうだろう？

例えば、イメージが原因だとする。

イメージというのは人によって様々だ。

君の神社に良い印象があれば、悪い印象もある。

そのイメージを他人に聞いてみるんだ。

何が悪いのか、どうしたらいいのかを他人の視点から見つけ出し、改善するんだ。

あとは自身の評判とかはどうだろう？

君はこれまで、幻想郷に起きていた様々な異変を解決している。その点から言えば、君の評判はきつと良いものだろう。それを前面に押し出してアピールするんだ。

自分がどれだけ有能なのかを広めるんだ。

それと、君の金銭欲は出来るだけ控える事をお勧めするよ。

君は『巫女』だ。

神に仕える神聖な職業にそんな欲を持つのはどうだろう？

知らず知らずの内に、そういった欲は表に出てしまうものだ。

先刻言ったイメージというのは、これに該当するんだよ。

イメージ一つでガラツと変わってしまうからね。

．．．．．ところで君はいつ、ツケを払ってくれるんだい？

「十字架ポーズの宵闇妖怪」さんからの悩み

Q・あのね、私っていつもお腹が空くんだ。

人間を食いたいんだけど、食べようとすると紅白とか白黒に退治されちゃうの。

どうすれば人間を食べられるようになるのかな？

A・まず人間を食べる事を止めたらどうだろう？

君が生命の活動に置いて、人間を食しなければ生きていけない訳では無いだろう？

単なる空腹を満たすのであれば、人間の食事で事足りる。

無暗やたらに人を襲うべきではないよ。

だからと言って勝手に人の食べ物を食べていい訳ではない。

『働かざる者食うべからず』という言葉がある。

働かない者には食べる物はない、という意味だ。

食べ物には有限であり、尊い物でもある。

際限なく食していいものではないのだよ。

じゃあどうすればいいだつて？

簡単さ、働いて自分で食べる物を得ればいい。

君で良ければ、僕の店で働く気はないかい？

真面目に働けばちゃんと食事は出すよ。

．．．．．えっ？

「それよりも僕の方が美味そう」だつて？

いや、僕は半人半妖だぞ。

得体の知れない肉なんて喰う気にはならないだろう？

おい何で涎を垂らして眼を爛々と光らしている！

待て、止める．．．．．痛っ！！

「引きこもりの魔法使い」さんからのお悩み

Q・またアイツが私の本を持ってたわ。

これで何冊目だと思ってるのよ。

しかも中途半端な巻とか持つてくから整理もできないし困った

わ。

何とかならないかしら？

A・とりあえず、君には謝っておこう。

身内が勝手な事をして悪かった。

さて、質問の返答に返ろうか。

友人関係で揉める事はよくあることだね。

君の場合はその友人との付き合いを考えたらどうだろう？

流されるままの関係というのはあまりよくない傾向だ。

放って置けばどんどんエスカレートしていく一方だよ。

そして君にも原因があるのは確かだ。

こういったケースは当事者にも責任があることが多い。

持っていられるのを黙って見ているのではなく、少し強い口調

で注意してみるといい。

よほど物わかりが悪くなければ、考えを改めてくれるだろう。それでも分からないならば、実力行使だな。

時には意見をぶつけ合うのもいいだろう。

喧嘩をすることで、互いの気持ちを理解できるというものだ。

．．．．．えっ？

「喧嘩できるほど体力がない」？

それは普段君があんな所に籠っているからだだろう。

いつも思うが、君はもう少し外に出て体を動かすべきだ。

ただでさえ活発な子を相手にするんだから尚更だ。

「貴方も一緒に」だって？

いや、何で僕まで付き合わなきゃいけないんだ。

「貴方にも責任がある」？

．．．．．まあ、確かにあの子の身内だから多少の責任は

あるが。

はあ、分かったよ。

その内付き合うとしよう。

「潇洒なメイド」さんからのお悩み

Q・いつも門番が仕事をサボっています。

ちよつと眼を離すとすぐに門の前で眠っているんです。

彼女に何度も注意してるんですが一向に改善する気配がありません。

どうしたらよいでしょうか？

A・それだけ門番の仕事が大変ではないのだろうか？

門番というのは、その門を守護するもの。

来る侵入者を阻み、いかなる時も気を張ってなければいけない。

まあ、だからこそサボる事はいけないのだがね。

だが四六時中見張っていれば疲れるのは当たり前だろう。

あまりにも眠る事が頻繁に起こるのならば、一度しっかり休養を取らせるべきだ。

過度な労働は身体に毒だよ。

もちろん君も常に館の仕事で大変なのは分かる。

それぐらい門番の仕事も楽ではないのだろう。

ただ注意するだけでなく、相手の立場になって考えてみるといい。

同じ職場の者同士、円満な関係を築くには必要なことだよ。

いつその事、一度君達の仕事を交換してみたらどうだろう？

互いの立場になり、その仕事がどれだけ大変なのかを理解するにはそれが一番だ。

そうすれば君も門番の大変さが分かるし、彼女も君の仕事の大変さが分かる。

互いの仕事を理解すれば、それがどれだけ重要なものなのかも分かる。

そうすれば彼女も、一層門番の仕事に打ち込めるんじゃないかな？

．．．．．えっ？

「じゃあ私と仕事を交換してみませんか」？

別にその必要はないだろう。

第一、君は僕を理解してどうするんだ？

「よりよい関係を築くために」？

確かにそれは大事なことだが、君とはすでに『店主』と『お客』の関係が成り立っているだろう？

僕は別にそれだけでもいい関係だと思うがね。

．．．．．怒って出て行ってしまった。

何がいけなかったんだろう？

さて、今日はここまでにしようか。

個人的に幸先のいいスタートが出来たと思うよ。

しかしこうやって話を聞いてみると、意外と悩みを抱えている人は多いんだな。

これから忙しくなりそうだ。

では、今日はこの辺で店じまいとさせてもらおう。
また来るといい。

（後書き）

原作（『東方香霖堂』）よりはフラグブレイカーじゃない霖之助さん。

蘊蓄を語れる人って何気に相談事とかを真摯に向かってくれと思うんですよね。

まだまだ相談者^{ネタ}はたくさんいます。

次は誰にしましょうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3818s/>

森近霖之助のお悩み相談室

2011年10月6日23時41分発行